

# 現地災害調査報告

平成30年12月17日に香川県観音寺市で発生した突風について

## 目次

- 1 突風の原因
- 2 現地調査結果
- 3 気象の状況
- 4 参考資料

平成31年1月16日

注)本資料は、最新の情報により内容の一部訂正や追加をすることがある。

# 1 突風の原因

12月17日11時15分頃、観音寺市室本町(むろもとちょう)地区から八幡町(やはたちょう)地区にかけて突風が発生し、木造の畜産施設の屋根ふき材の飛散などの被害があった。

このため12月17日、高松地方気象台は、突風をもたらした現象を明らかにするため、職員を気象庁機動調査班(JMA-MOT)として派遣し、現地調査を実施した。

調査結果は以下のとおりである。

## 1-1 突風の原因の推定

### (1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は竜巻と推定した。

(根拠)

- ・突風発生時に積乱雲が付近を通過中であった。
- ・確度が高い、竜巻や漏斗雲の目撃証言が複数得られた。
- ・被害及び痕跡は帯状に分布していた。
- ・竜巻に特徴的なゴーという音が移動したという証言が複数得られた。

### (2) 発生時刻と場所

この突風は、12月17日11時15分頃に観音寺市室本町地区で発生し、東に移動し八幡町地区で消滅した。

(根拠)

- ・11時10分から11時20分にかけて、被害地付近を積乱雲が西から東へ通過していた。
- ・八幡町地区で11時16分頃に突風で物が飛散する映像があった。

### (3) 強さ(日本版改良藤田スケール)

この突風の強さは、風速約40m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF1に該当する。

(根拠)

- ・木造の畜産施設の屋根ふき材の飛散。

《根拠に用いた被害指標(DI)及び被害度(DOD)》

- ・DI: 木造の畜産施設
- DOD: 比較的狭い範囲での屋根ふき材の飛散(代表値)

### (4) 被害の範囲

この突風による被害範囲は、長さ約0.4km、幅約30mであった。

## 1-2 突風被害発生地域

●:突風被害発生地域



出典:地理院地図

## 2 現地調査結果

実施官署:高松地方気象台

実施場所:香川県観音寺市室本町地区から八幡町地区

実施日時:平成30年12月17日 15時00分～18時00分

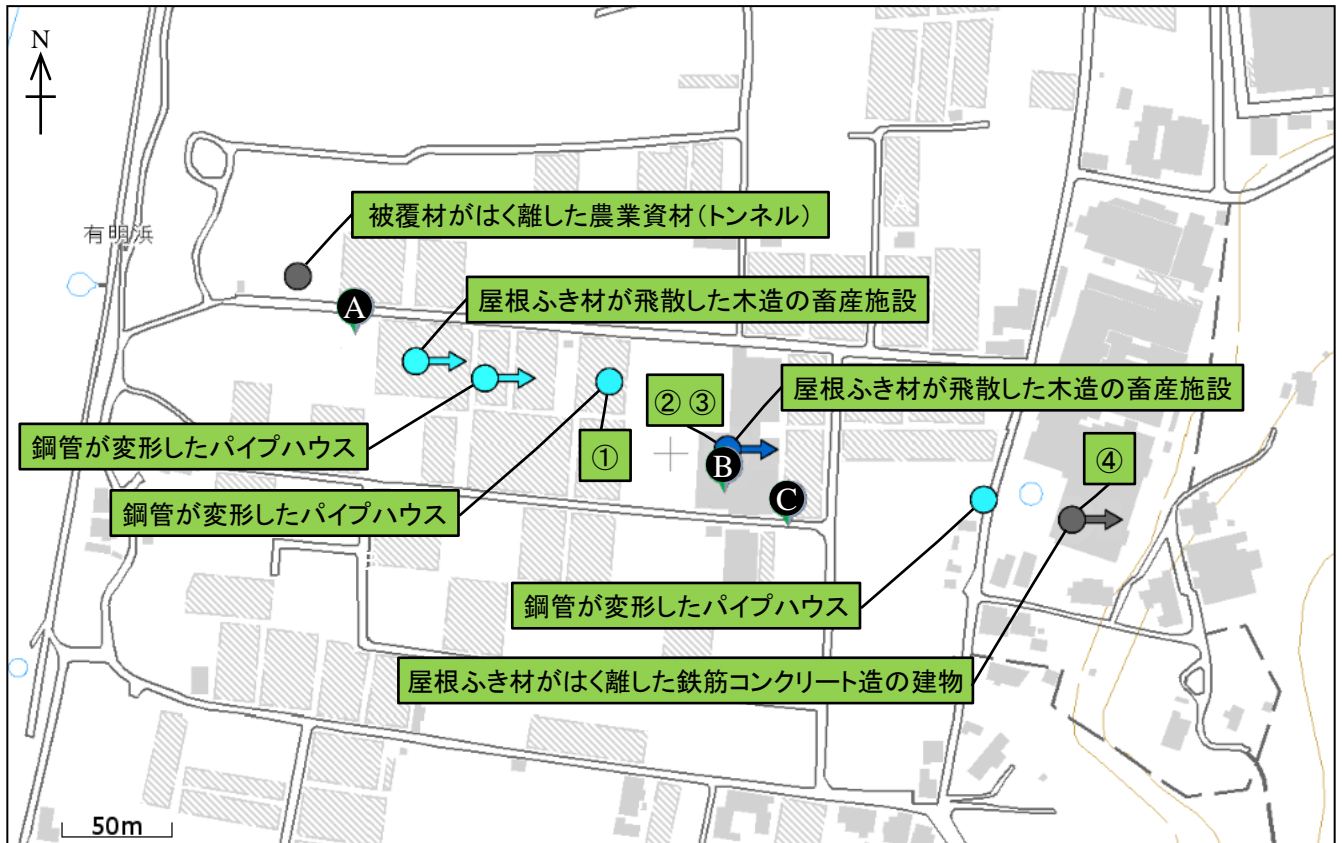
### (1)被害発生地域図(観音寺市)



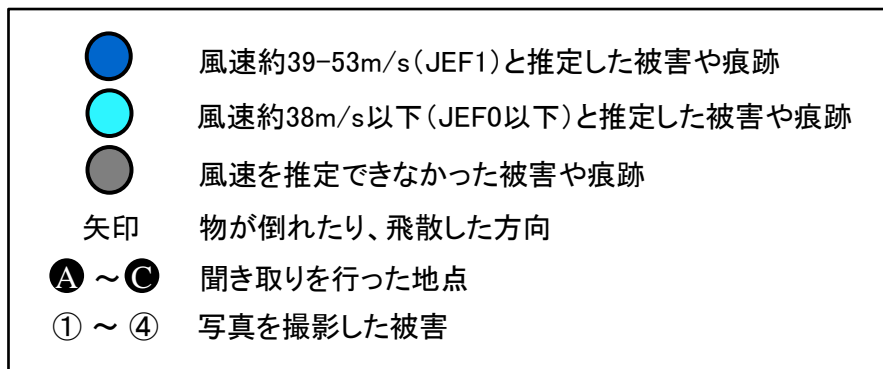
拡大図(観音寺市室本町地区から八幡町地区).....P4

出典:地理院地図

(2)被害発生地域拡大図(観音寺市室本町地区から八幡町地区)



出典:地理院地図



### (3)聞き取り調査

・A 地点

あられが降っていて、黒い渦(漏斗雲)を目撃した。

・B 地点

11時15分頃(携帯電話の通話時刻で確認)、竜巻を目撃した。ゴーという音が近づいてきて遠ざかった。小雨が降っていた。

・C 地点

11時15分頃、バリバリという音を聞いて黒い渦(漏斗雲)を目撃した。黒い渦の下はハウスの陰で見えなかった。ゴーという音が近づいてきて遠ざかった。小雨が降っていた。

(4)被害状況写真



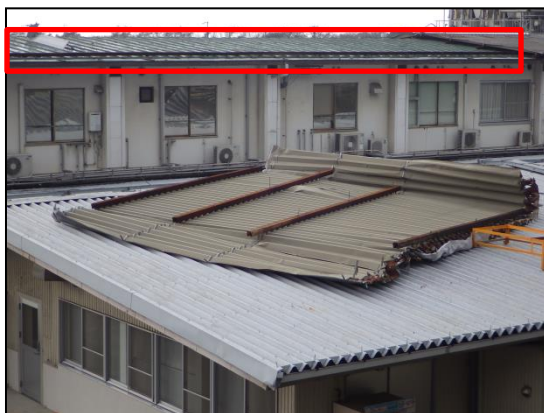
写真①鋼管(管径25mm)が変形した  
パイプハウス  
(北東方向から撮影)



写真②屋根ふき材が飛散した木造  
の畜産施設  
(北西方向から撮影)



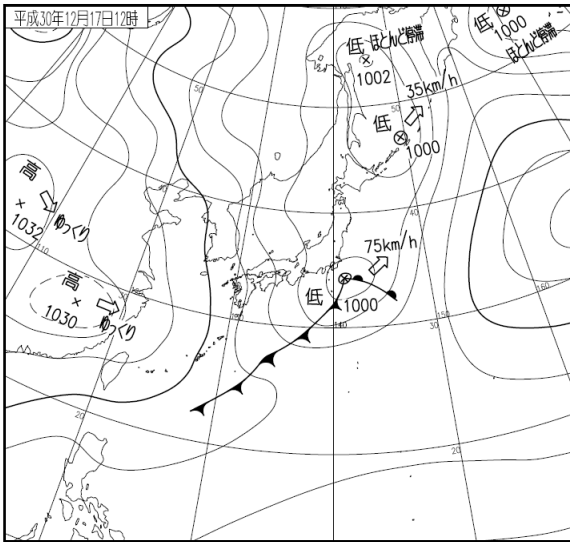
写真③屋根ふき材が飛散した木造  
の畜産施設



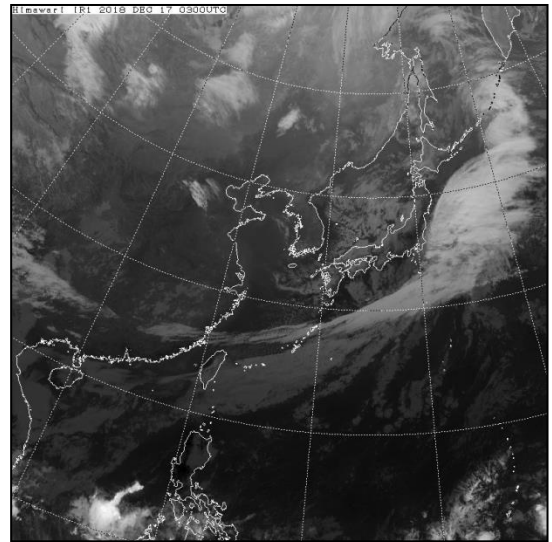
写真④屋根ふき材がはく離した鉄筋  
コンクリート造の建物(後ろ側  
の二階建ての建物)  
(南東方向から撮影)

### 3 気象の状況

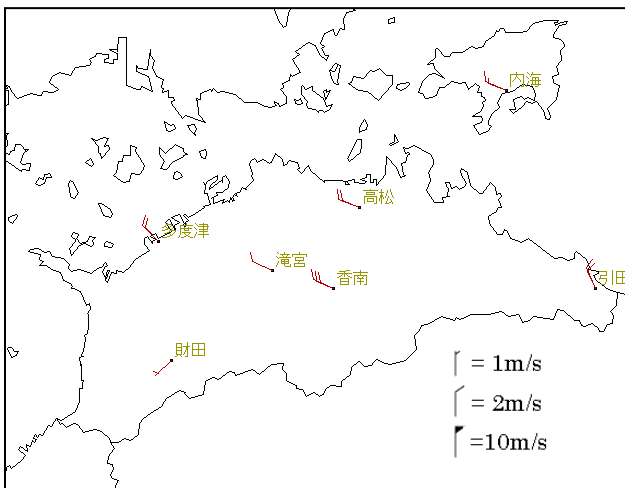
12月17日、四国の南海上を前線を伴った低気圧が東に進み、次第に冬型の気圧配置となり、上空に寒気が流れ込んだ。このため、香川県では局地的に積乱雲が発達し突風が発生した。レーダー観測では積乱雲が東進しており、香川県観音寺市では積乱雲下で突風が発生した。



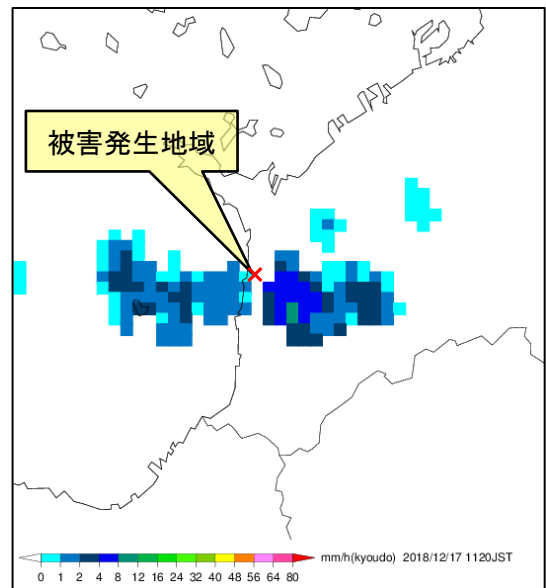
地上天気図(12月17日12時)



気象衛星赤外画像(12月17日12時)

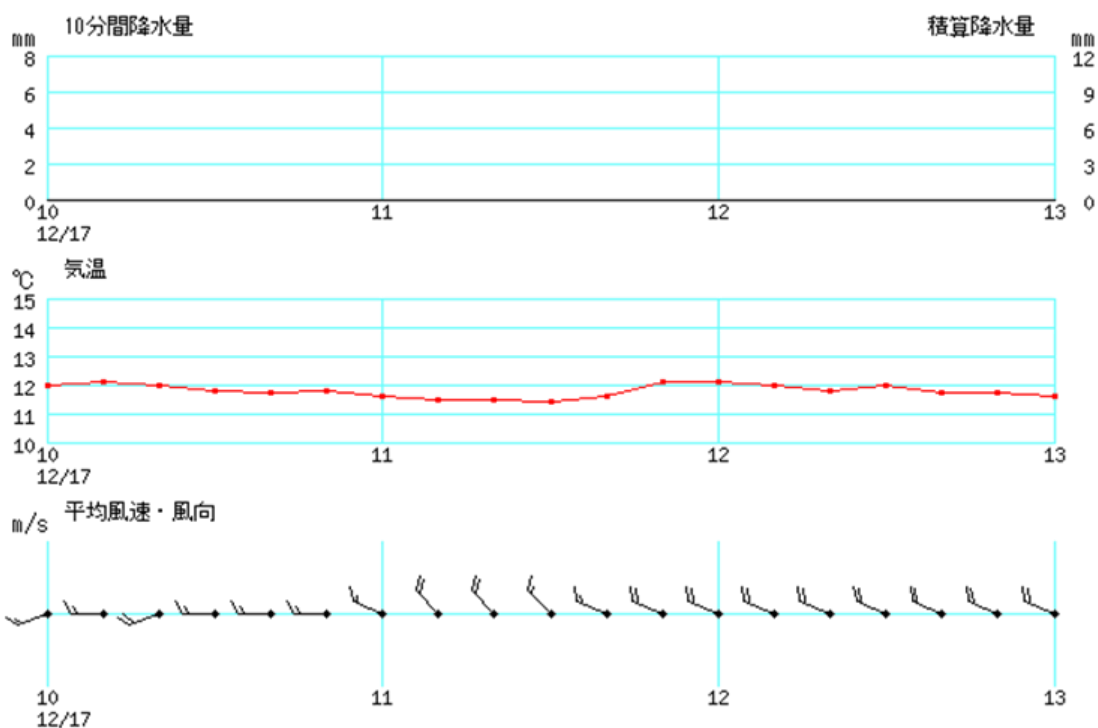


アメダス地点における前10分間平均風向風速分布図 (12月17日11時20分)

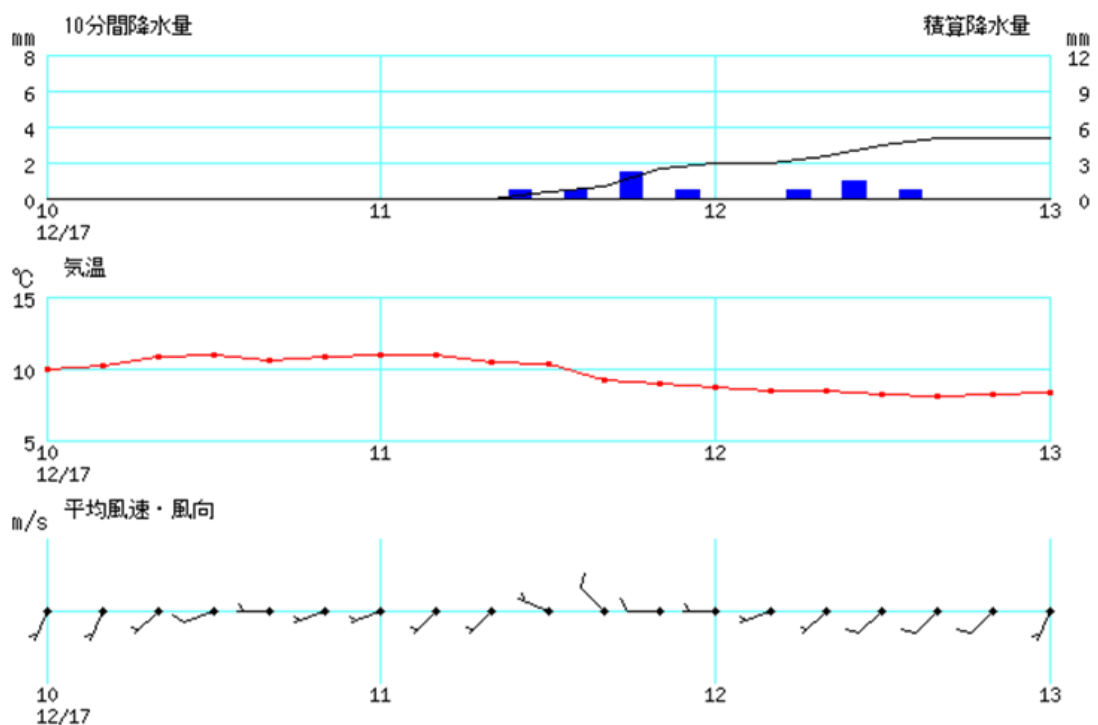


気象レーダー画像(降水強度)  
(12月17日11時20分)





アメダス多度津 時系列グラフ(12月17日10時～13時)

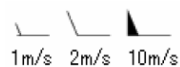


アメダス財田 時系列グラフ(12月17日10時～13時)

※横軸は時刻を示す。

※平均・風向風速は前10分間の平均値で、  
風速の表し方は下の例のとおり。

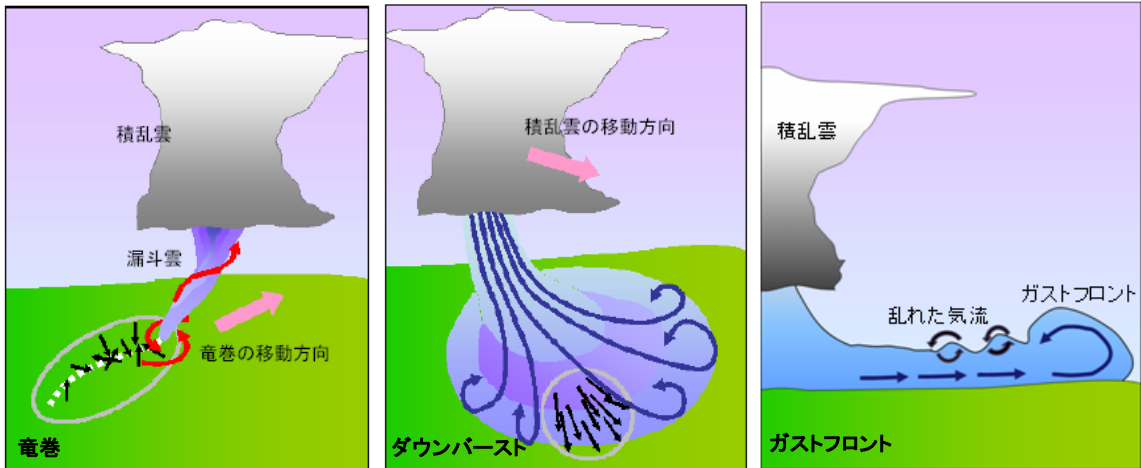
※降水量棒グラフは10分間降水量(左軸)、  
折れ線グラフは積算降水量(右軸)を示す。



## 4 参考資料

### 突風の種類

現象	特徴
竜巻	積雲や積乱雲に伴って発生する鉛直軸を持つ激しい渦巻きで、漏斗状または柱状の雲を伴うことがある。地上では、収束性で回転性の突風や気圧降下が観測され、被害域は帯状・線状となることが多い。
ダウンバースト	積雲や積乱雲から生じる強い下降気流で、地面に衝突し周囲に吹き出す突風である。地上では、発散性の突風やしばしば強雨・ひょうを伴い露点温度の下降を伴うことがある。被害域は円または楕円状となることが多い。周囲への吹き出しが4km未満のものをマイクロバースト、4km以上のものをマクロバーストとも呼ぶ。
ガストフロント	積雲や積乱雲から吹き出した冷気の先端と周囲の空気との境界で、しばしば突風を伴う。降水域から前線状に広がることも多く、数10kmあるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。地上では、突風と風向の急変、気温の急下降と気圧の急上昇が観測される。
じん旋風	晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂じんを伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の昇りによって発生する。
漏斗雲	竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。
その他の突風	自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。



#### ↑ 竜巻の模式図(左)

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。

#### ↑ ダウンバーストの模式図(中)

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

#### ↑ ガストフロントの模式図(右)

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷気外流出を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。

## 日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速 (m/s) の範囲 (3 秒値)	主な被害の状況 (参考)
JEF0	25~38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。</li> <li>・園芸施設において、被覆材（ビニルなど）がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。</li> <li>・物置が移動したり、横転する。</li> <li>・自動販売機が横転する。</li> <li>・コンクリートブロック塀（鉄筋なし）の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。</li> <li>・樹木の枝（直径2cm~8cm）が折れたり、広葉樹（腐朽有り）の幹が折損する。</li> </ul>
JEF1	39~52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。</li> <li>・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。</li> <li>・軽自動車や普通自動車（コンパクトカー）が横転する。</li> <li>・通常走行中の鉄道車両が転覆する。</li> <li>・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。</li> <li>・道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。</li> <li>・コンクリートブロック塀（鉄筋あり）が損壊したり、倒壊する。</li> <li>・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。</li> </ul>
JEF2	53~66	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷（ゆがみ、ひび割れ等）する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。</li> <li>・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。</li> <li>・普通自動車（ワンボックス）や大型自動車が横転する。</li> <li>・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。</li> <li>・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。</li> <li>・コンクリートブロック塀（控壁のあるもの）の大部分が倒壊する。</li> <li>・広葉樹の幹が折損する。</li> <li>・墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。</li> </ul>
JEF3	67~80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。</li> <li>・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。</li> <li>・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。</li> <li>・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。</li> <li>・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。</li> <li>・アスファルトがはく離・飛散する。</li> </ul>
JEF4	81~94	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。</li> </ul>
JEF5	95~	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。</li> <li>・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。</li> </ul>

## 日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

[https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221\\_kentoukai/guideline.pdf](https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf)

謝辞

この資料を作成するにあたっては、関係機関の方々、香川県観音寺市の住民の方々にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

本調査報告に使用している地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図(タイル)』を複製したものです。

(承認番号 平29情複、第958号)

本資料の問い合わせ先

高松地方気象台

電話 087-826-6122